

名誉園長の部屋

<news>

名誉園長の文化講演のお知らせ
恒例になりました紅葉の季節の催し
「オータム・イン・植物園」今年も府
立植物園再開園50周年を記念して
名誉園長の講演を予定しています。
11月23日(水・祝)午後2時30分
内容は『打って出る京都府立植物園』
の発刊記念

次回 きまぐれ散歩のお知らせ

10月23日(日)午後1時から
植物園会館前集合 先着30名

「名誉園長の植物園おもしろガイド」
好評発売中!

「打って出る 京都府立植物園」
名誉園長の植物園再生への熱い想いが満載!
9月末発売予定

*活動予定はここで要チェック。
お楽しみに!

<プロフィール>

- [1975年 京都府入庁](#)
- [1995年 京都府立植物園勤務](#)
- [2006年6月 京都府立植物園長就任](#)
- [2010年5月 京都府立植物園長退任](#)
- [同 京都府立大学客員教授就任](#)



今、これを見てほしい!

松谷 茂

「松」よもやまばなし

『「松」という名前の木、「桜」という名前の木はありません』と言うと、ちょっと嫌味な言い方になるかもしれませんが、植物分類学的に言うと、「アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツ」や「ヤマザクラ、オオシマザクラ、ウワミズザクラ」など一つの「種(しゅ)」を限定した言い方が正しい表現となります。つまり、「この松、大きいなあ」ではなく、「このアカマツ、大きいなあ」という表現をします。「この松」と言ったときに、松の仲間・種類は世界中にもものすごくたくさん存在するから、「その中のどれを指しているのだろう」ということを思うからです。

「このアカマツ」といった瞬間に、たくさんある松の仲間のうちのたった一つの「種」を限定することができます。

「アカマツ」は日本だけに通用する「和名」なのですが、世界に通用する学名「Pinus densiflora」と言った瞬間に、世界から「アッ、あの松だ」と理解されます。

さてその松、植物園にも多くの種(しゅ)が植栽・展示されていますが、パッとみただけではなんという名前の松なのか、よく分かりません。

名前を探っていく一つの手段として、「松の葉っぱ」の枚数があります。

「松の葉っぱ」ってどれ? 平べったい形ではなく、針のような形をしている「針葉(しんよう)」が松の仲間の葉っぱなのですが、グッと焦点を当てて葉っぱの付け根を見ますと、何枚かずつが束になってついていることが分かります。

二枚、三枚、五枚、と言うより、二本、三本、五本と言いましょ。

日本でよく見かける「アカマツ」(写真-1)や「クロマツ」(写真-2)は二本が一つの束になっています。二枚の葉を持つ松のことを「二葉松=によしょう」と言います。



写真-1 アカマツ



写真-2 クロマツ

「ゴヨウマツ=ヒメコマツ」(写真-3)の針葉は五本が一つの束になっています。五本つまり五枚の葉の松だから五葉松。日本の「ゴヨウマツ」の針葉はとても短く、それ故に、盆栽に使われることも多いですね。しかし、世界の五葉松(ごようしょう)は、針葉の長いものもあり、ヒマラヤ原産の「ヒマラヤゴヨウ」(写真-4)やメキシコ原産の「オークサカーナマツ」(写真-5)の針葉はかなり長いので、是非、確かめてほしいものです。



写真-3 ゴヨウマツ



写真-4 ヒマラヤゴヨウ

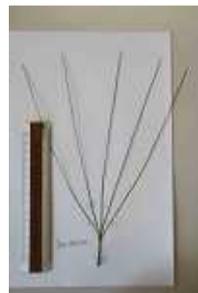


写真-5 オークサカーナマツ

ちなみに「オークサカーナマツ」は戦後の再開園時、多分、京都大学上賀茂試験地から導入されたのではないかと推定しています。また、この名前、私が独自に調べたものをラベル表示したのですが、ひょっとしたら間違っているかもしれません。

世界には三本の葉を持つ三葉松(さんようしょう)も多く、北米原産のテーダマツ(写真-6)もそのうちの一つです。

大きな松ぼっくり(球果)は格好良いのですが、外側にある鱗片の先端は下向きに短くて鋭い突起があって(写真-7)、これを触ると厳しく痛い!!



写真-6 テーダマツ



写真-7 テーダマツの鱗片の先端の突起

格好良いが故に、クリスマスのデコレーションに大人気。

この秋、11月19日、20日、23日に大芝生地で開催される「オータムイン」にはこのテーダマツを飾り付ける(写真-8)クラフト体験コーナーも設けられる予定です。クリスマスの先取り!

是非、お越してください。



写真-8 テーダマツの飾り付け

漢字の松とカタカナのマツの表記は、一般的な植物として使う場合(松並木、松風など)は漢字、種(しゅ)を特定した場合はカタカナ、としています。

アッ、言い忘れていました。

「アカマツ」「クロマツ」は日本に自生しています。その針葉の本数は、日本だけに、二本です。(ホッ!!)